

平成26年 2月

# 徳田卓裕 学位論文審査要旨

主 査 尾 崎 米 厚  
副主査 萩 野 浩  
同 長谷川 純 一

## 主論文

Bone mineral density in residents of care facilities for the aged and effect of pharmacotherapy

(介護老人保健施設入所者における骨密度および薬物治療の効果)

(著者：徳田卓裕、長谷川純一、松田明子、萩野浩)

平成26年 Yonago Acta medica 掲載予定

## 参考論文

1. Upregulation of mRNA of retinoid binding protein and fatty acid binding protein by cholesterol enriched-diet and effect of ginger on lipid metabolism

(高コレステロール食によるレチノイド結合蛋白、脂肪酸結合蛋白のmRNA増加と脂質代謝に及ぼすショウガの効果)

(著者：松田明子、王中志、高橋俊作、徳田卓裕、三浦典正、長谷川純一)

平成21年 Life Sciences 84巻 903頁～907頁

2. Protective effects of ginger against aspirin-induced gastric ulcers in rats

(ラットのアスピリン誘発胃潰瘍に対するショウガの防御効果)

(著者：王中志、長谷川純一、王心慧、松田明子、徳田卓裕、三浦典正、渡邊達生)

平成23年 Yonago Acta medica 54巻 11頁～19頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

近年高齢化と共に増加している骨粗鬆症の診断に骨量測定が威力を発揮しているが、骨折の予防などで重要性の高い介護老人保健施設等では測定機会が乏しい。本研究は全国でも珍しく鳥取県では初めて介護老人保健施設入所者における骨量について検討したものである。その結果、一般住民における報告と比較して、年齢の割に骨密度が低下していることを明らかにしたほか、リセドロン酸塩による治療効果が期待できることを示したものである。本研究は、介護老人保健施設等の入所高齢者に対し、骨折などQOL低下に大きな影響をあたえる危険を防止する上で非常に有用な知見をもたらしたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。